

如くなつてゐる。

日農九州同盟會 支部 一一一 組合員 五、二八四

全農福岡縣聯合會 一三 六六四

全農福佐聯合會 四八 一、七五〇

次に組合の經濟運動に於ては三派各々差異ありと雖も、概して舊來の小作料の一時的減額要求より次第に永久減の要求に轉じ更に最近は地主の土地引上に對抗して土地は働く農民へ一をスローガンに耕作權確立の運動へ進展し、或は低利資金支拂延期運動、借金率引運動、農村區救土木事業實施反對、或は亦區劃整理反對運動等に於て其の闘争概ね深刻にして往々大衆の動員、暴行爲等不穩の行動に出でつゝあり、一方小作争議は年々増加の傾向を辿り、本年十一月末現在既に一五三件に達し前年同期の一四一件に比し十二件の増加を示してゐるのである。

而して他方政治運動に於ては衆議院縣議選では餘り振はないが本年四月以降の町村會議員改選に當りては、組合所屬町村會議員六十三名を當選せしめ、前期の二十九名に比して著しき進出を示し、且つ農會總代議員には現在一四二名を有し相當の勢力を扶植しつゝあるのである。

次に地主團體との關係に於て之を見るに、最近農民組合の果敢執ヨウなる運動に刺激されて漸次攻勢的態度に出づるの傾向あり、即ち一二の地主組合に於ては本年に入り滞納小作料の強制執行を爲し、或は最近最も激烈なる争議地たる北九州豊前方面に於ける多数の地主を株主とし辯護士を社長とする北九州不動産管理株式會社の創立（本年十月十七日）を見たるが如きは、農民組合との對立を一層激化せしむるものにして、此の間に於ける協調的組合の活動一二の例外を除き概して振はざること